

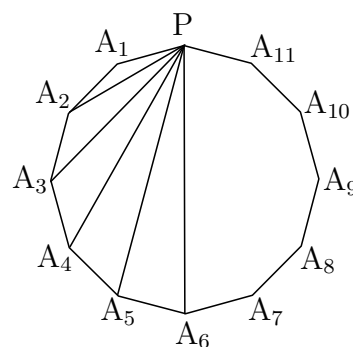
平成 13 年度 宮崎大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

工・教育文化・農学部 平成 13 年 2 月 25 日

- 工学部は, [1] ~ [4] 必答, [6] ~ [8] から 1 題選択. 数 II・III・B(120 分)
- 教育文化 (中学 [理系], 生活文化 [生活環境コース]) 学部は, [2], [5] 必答, [6] ~ [8] から 1 題選択. 数 II・B (90 分)
- 教育文化 (初等教育コース, 中学 [文系], 障害児コース) 学部・農 (食料生産科学・地域農業システム・獣医) 学部は, [1], [5] 必答, [9] ~ [11] から 1 題選択. 数 II・A (90 分)

[1] 次の各問に答えよ.

- (1) $\left(\frac{3}{2}\right)^{\frac{4}{3}}$ と $\left(\frac{4}{3}\right)^{\frac{3}{2}}$ の大小関係を調べよ. ただし, $\log_{10} 2 = 0.3010$, $\log_{10} 3 = 0.4771$ とする.
- (2) 右の図の半径 1 の円に内接している正 12 角形である. 図における線分 $PA_1, PA_2, PA_3, PA_4, PA_5$ の長さを求めよ.



[2] 平面上の 3 点 $A(0, 2)$, $B(-1, 0)$, $C(4, 0)$ を頂点とする $\triangle ABC$ について, 次の各問に答えよ.

- (1) 外接円の中心と半径を求めよ.
- (2) 内接円の中心と半径を求めよ.

三角形の 3 頂点を通る円をその三角形の外接円という.
また, 三角形の 3 辺すべてに接する円をその三角形の内接円という.

[3] 関数 $f(x) = \frac{3}{2}e^{-x} + 2e^x - 3$ について, 次の各問に答えよ.

- (1) $f(x)$ の $-1 \leq x \leq 0$ における最小値を求めよ.
- (2) 曲線 $C: y = f(x)$ の $x = 0$ における接線と $x = a$ における接線が直交している. このとき, 次の (A), (B) に答えよ.
- (A) a の値を求めよ.
- (B) x 軸, y 軸, 直線 $x = a$ および曲線 C によって囲まれる部分の面積を求めよ.

4 $x \geq 0$ で定義された関数

$$f_n(x) = x^2 - \frac{n}{n+1}x^{2+\frac{2}{n}} \quad (n \text{ は自然数})$$

について、次の各問に答えよ。

- (1) 方程式 $f_n(x) = 0$ の正の解を求めよ。
- (2) (1) で求めた正の解を x_n とするとき、 $S_n = \int_0^{x_n} f_n(x) dx$ を n を用いて表せ。
- (3) $\lim_{n \rightarrow \infty} nx_n S_n$ を求めよ。
ただし、 $\lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{n}\right)^n = e$ (自然対数の底) である。

5 放物線 $C: y = x^2$ とその上の点 (a, a^2) ($0 < a \leq 1$) における接線を l とするとき、次の各問に答えよ。

- (1) 接線 l の方程式を求めよ。
- (2) 直線 $x = 0$, $x = 1$, 放物線 C と接線 l で囲まれる部分で、 $y \geq 0$ を満たす部分の面積 $S(a)$ を求めよ。
- (3) $S(a)$ の最小値を求めよ。

6 相異なる 3 点 O, A, B に対し、ベクトル $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ が

$$|\vec{a}| = |\vec{b}| = 1, \quad \vec{a} \cdot \vec{b} \neq 0, \quad \vec{a} \cdot \vec{b} \neq 1, \quad \vec{a} \cdot \vec{b} \neq -1$$

を満たしているものとする。 $t = \vec{a} \cdot \vec{b}$ とおくとき、次の各問に答えよ。ただし、記号 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ はベクトル \vec{a} と \vec{b} の内積を、また、 $|\vec{a}|$ はベクトル \vec{a} の大きさを表す。

- (1) 直線 OB に関して、点 A と対称な点を C とするとき、ベクトル \overrightarrow{OC} を \vec{a} , \vec{b} と t を用いて表せ。
- (2) 直線 OC に関して、点 A と対称な点を D とするとき、ベクトル \overrightarrow{OD} と \vec{b} が平行となるような t の値をすべて求めよ。

7 整式 $F(x) = x^3 - x^2 + (k^2 - 1)x + k^2 + 1$ について、次の各問に答えよ。ただし、 $k > 0$ とする。

- (1) $F(x)$ は $x + 1$ で割り切れることを示せ。また、 $F(x) = 0$ の 2 つの虚数解を求めよ。
- (2) 複素数平面において、 $F(x) = 0$ の 2 つの虚数解を表す点を P, Q とし、実数解を表す点を R とする。このとき、次の (A), (B) に答えよ。
 - (A) 3 点 P, Q, R を通る円の方程式を複素数 z を用いて表せ。
 - (B) $\angle PRQ = 45^\circ$ であるとき、 k の値を求めよ。

8 A 君と B 君はジャンケンをくり返し行うものとする。1 回当りに「石」、「はさみ」、「紙」を A 君は 1 : 2 : 3 の割合で、B 君は 2 : 1 : 2 の割合で、過去の勝敗とは独立に出す。なお、ジャンケンの勝敗は以下のルールによるものとする。

- 1) 「石」は「はさみ」に勝つ。
- 2) 「はさみ」は「紙」に勝つ。
- 3) 「紙」は「石」に勝つ。
- 4) 「石」と「石」、「はさみ」と「はさみ」、「紙」と「紙」のときは引き分けとする。

このとき、次の各問に答えよ。

- (1) 1 回のジャンケンで A 君が勝つ確率を求めよ。
- (2) 6 回ジャンケンを行ったとき、A 君の勝ちが 2 回、B 君の勝ちが 2 回、引き分けが 2 回である確率を求めよ。
- (3) 900 回ジャンケンを行うとき、A 君が勝つ回数の期待値を求めよ。

9 次の各問に答えよ。

- (1) $a = \frac{1 + \sqrt{5}}{2}$, $b = \frac{1 - \sqrt{5}}{2}$ とするとき、

$$a^3 + b^3, a^6 + b^6$$

の値を求めよ。

- (2) $x > 0, y > 0, x + y = 1$ のとき、不等式

$$\left(1 + \frac{1}{x}\right)\left(1 + \frac{1}{y}\right) \geq 9$$

が成り立つことを示せ。また、等号が成り立つのはどのような場合か答えよ。

10 連続する自然数について、以下のような関係がある。

$$\begin{aligned} 1 + 2 &= 3 && \dots \textcircled{1} \\ 4 + 5 + 6 &= 7 + 8 && \dots \textcircled{2} \\ 9 + 10 + 11 + 12 &= 13 + 14 + 15 && \dots \textcircled{3} \\ &\vdots && \end{aligned}$$

n 番目の式を \textcircled{n} とし、その左辺の和を $S(n)$ で表す。このとき、次の各問に答えよ。

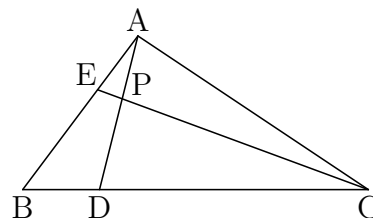
- (1) 4 番目の式 $\textcircled{4}$ と $S(4)$ を求めよ。
- (2) n 番目の式 \textcircled{n} を予想し、その等式が成り立つことを示せ。

11 右の図の三角形 ABC において、

$$AE : EB = 1 : a$$

$$BD : DC = 1 : b$$

とする。ただし、 $a > 0, b > 0$ である。このとき、次の各問に答えよ。



- (1) $AP : PD$ を a, b を用いて表せ。
- (2) $\triangle APE : \triangle ABC$ を a, b を用いて表せ。

正解

$$\begin{aligned}
 \boxed{1} \quad (1) \quad & \log_{10} \left(\frac{3}{2} \right)^{\frac{4}{3}} - \log_{10} \left(\frac{4}{3} \right)^{\frac{3}{2}} \\
 &= \frac{4}{3}(\log_{10} 3 - \log_{10} 2) - \frac{3}{2}(2\log_{10} 2 - \log_{10} 3) \\
 &= \frac{1}{6}(17\log_{10} 3 - 26\log_{10} 2) = \frac{1}{6}(8.1107 - 7.826) > 0
 \end{aligned}$$

したがって $\log_{10} \left(\frac{3}{2} \right)^{\frac{4}{3}} > \log_{10} \left(\frac{4}{3} \right)^{\frac{3}{2}}$

底 10 は 1 より大きいから $\left(\frac{3}{2} \right)^{\frac{4}{3}} > \left(\frac{4}{3} \right)^{\frac{3}{2}}$

- (2) $\theta = 15^\circ$, 線分 PA_6 の中点を O とすると $\angle POA_k = 2k\theta$ ($k = 1, 2, 3, 4, 5$)
 $\triangle OPA_k$ に余弦定理を適用すると

$$\begin{aligned}
 PA_k^2 &= OP^2 + OA_k^2 - 2OP \cdot OA_k \cos 2k\theta \\
 &= 1^2 + 1^2 - 2 \cdot 1 \cdot 1 \cos 2k\theta = 4 \sin^2 k\theta
 \end{aligned}$$

したがって $PA_k = 2 \sin k\theta$

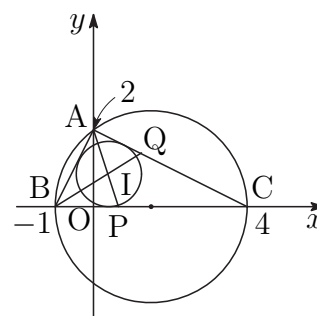
$$\begin{aligned}
 \text{よって} \quad PA_1 &= 2 \sin 15^\circ = \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{2}, & PA_2 &= 2 \sin 30^\circ = 1, \\
 PA_3 &= 2 \sin 45^\circ = \sqrt{2}, & PA_4 &= 2 \sin 60^\circ = \sqrt{3}, \\
 PA_5 &= 2 \sin 75^\circ = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{2}
 \end{aligned}$$

- 2 (1) $AB = \sqrt{5}$, $AC = 2\sqrt{5}$, $BC = 5$ であるから

$$AB^2 + AC^2 = BC^2$$

したがって, $\triangle ABC$ は $\angle BAC = 90^\circ$ の直角三角形であり, BC はこの三角形の外接円の直径である. よって, 外接円の中心と半径は

$$\text{中心} \left(\frac{3}{2}, 0 \right), \text{半径} \frac{5}{2}$$



- (2) $\angle CAB$, $\angle ABC$ の二等分線と BC , CA との交点をそれぞれ P , Q とすると

$$BP : PC = AB : AC = 1 : 2, \quad CQ : QA = BC : BA = \sqrt{5} : 1$$

したがって P の座標は $\left(\frac{2 \cdot (-1) + 1 \cdot 4}{1 + 2}, 0 \right)$ すなわち $\left(\frac{2}{3}, 0 \right)$

Q の座標は $\left(\frac{\sqrt{5} \cdot 0 + 1 \cdot 4}{\sqrt{5} + 1}, \frac{\sqrt{5} \cdot 2 + 1 \cdot 0}{\sqrt{5} + 1} \right)$ すなわち $\left(\sqrt{5} - 1, \frac{5 - \sqrt{5}}{2} \right)$

これから, 2 直線 AP , BQ の方程式は, それぞれ

$$y = -3x + 2, \quad y = \frac{\sqrt{5} - 1}{2}(x + 1)$$

$\triangle ABC$ の内接円の中心を I とすると, I はこの 2 直線の交点であるから

$$I \left(\frac{3 - \sqrt{5}}{2}, \frac{3\sqrt{5} - 5}{2} \right)$$

また, 内接円の半径は, I の y 座標に等しい. よって

$$\text{中心} \left(\frac{3 - \sqrt{5}}{2}, \frac{3\sqrt{5} - 5}{2} \right), \text{半径} \frac{3\sqrt{5} - 5}{2}$$

3 (1) $f(x) = \frac{3}{2}e^{-x} + 2e^x - 3$ を微分すると

$$f'(x) = -\frac{3}{2}e^{-x} + 2e^x = \frac{4(e^x)^2 - 3}{2e^x}$$

$$f'(x) = 0 \text{ とすると } e^x = \frac{\sqrt{3}}{2} \text{ すなわち } x = \log \frac{\sqrt{3}}{2}$$

$$e^{-1} < \frac{\sqrt{3}}{2} < 1 \text{ であるから } -1 < \log \frac{\sqrt{3}}{2} < 0$$

したがって, $f(x)$ の増減表は次のようになる.

x	-1	\dots	$\log \frac{\sqrt{3}}{2}$	\dots	0
$f'(x)$		$-$	0	$+$	
$f(x)$		\searrow	極小	\nearrow	

よって, 求める最小値は

$$f\left(\log \frac{\sqrt{3}}{2}\right) = \frac{3}{2} \times \frac{2}{\sqrt{3}} + 2 \times \frac{\sqrt{3}}{2} - 3 = 2\sqrt{3} - 3$$

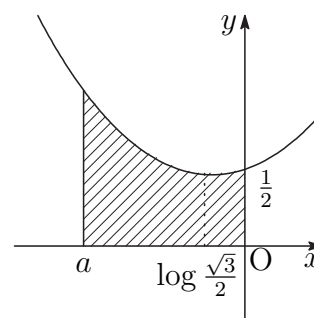
(2) (A) C の $x = 0$ における接線と $x = a$ における接線が直交するから,
 $f'(0)f'(a) = -1$ より

$$\frac{1}{2} \cdot \left(-\frac{3}{2}e^{-a} + 2e^a\right) = -1 \text{ すなわち } (2e^a - 1)(2e^a + 3) = 0$$

$$2e^a + 3 \neq 0 \text{ であるから } e^a = \frac{1}{2} \text{ よって } a = -\log 2$$

(B) 求める面積を S とすると

$$\begin{aligned} S &= \int_a^0 \left(\frac{3}{2}e^{-x} + 2e^x - 3\right) dx \\ &= \left[-\frac{3}{2}e^{-x} + 2e^x - 3x\right]_a^0 \\ &= \frac{1}{2} - \left(-\frac{3}{2}e^{-a} + 2e^a - 3a\right) \\ &= \frac{1}{2} - \left\{-\frac{3}{2} \cdot 2 + 2 \cdot \frac{1}{2} - 3(-\log 2)\right\} \\ &= \frac{5}{2} - 3 \log 2 \end{aligned}$$



$$\boxed{4} \quad (1) \quad f_n(x) = x^2 - \frac{n}{n+1}x^{2+\frac{2}{n}}, \quad f_n(x) = 0 \text{ より} \quad x^2 \left(1 - \frac{n}{n+1}x^{\frac{2}{n}}\right) = 0$$

$$x > 0 \text{ のとき} \quad x^{\frac{2}{n}} = \frac{n+1}{n} \quad \text{すなわち} \quad x = \left(\frac{n+1}{n}\right)^{\frac{n}{2}}$$

$$(2) \quad x_n = \left(\frac{n+1}{n}\right)^{\frac{n}{2}}$$

$$\begin{aligned} S_n &= \int_0^{x_n} f_n(x) dx = \int_0^{x_n} \left(x^2 - \frac{n}{n+1}x^{2+\frac{2}{n}}\right) dx \\ &= \left[\frac{1}{3}x^3 - \frac{n}{n+1} \cdot \frac{n}{3n+2}x^{3+\frac{2}{n}} \right]_0^{x_n} \\ &= \frac{1}{3}x_n^3 \left\{ 1 - \frac{3n^2}{(n+1)(3n+2)}x_n^{\frac{2}{n}} \right\} \\ &= \frac{1}{3} \left(\frac{n+1}{n}\right)^{\frac{3}{2}n} \left\{ 1 - \frac{3n^2}{(n+1)(3n+2)} \cdot \left(\frac{n+1}{n}\right) \right\} \\ &= \frac{2}{3(3n+2)} \left(\frac{n+1}{n}\right)^{\frac{3}{2}n} \end{aligned}$$

(3) (2) の結果から

$$\begin{aligned} nx_n S_n &= n \cdot \left(\frac{n+1}{n}\right)^{\frac{n}{2}} \cdot \frac{2}{3(3n+2)} \left(\frac{n+1}{n}\right)^{\frac{3}{2}n} \\ &= \frac{2n}{3(3n+2)} \left(\frac{n+1}{n}\right)^{2n} \\ &= \frac{2}{3\left(3+\frac{2}{n}\right)} \left\{ \left(1+\frac{1}{n}\right)^n \right\}^2 \end{aligned}$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left(3 + \frac{2}{n}\right) = 3, \quad \lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{n}\right)^n = e \text{ であるから}$$

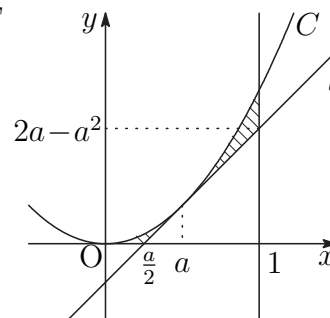
$$\lim_{n \rightarrow \infty} nx_n S_n = \frac{2}{9}e^2$$

- 5 (1) $y = x^2$ を微分すると $y' = 2x$
 l は点 (a, a^2) を通り, 傾き $2a$ の直線であるから

$$y - a^2 = 2a(x - a) \quad \text{すなわち} \quad y = 2ax - a^2$$

- (2) l, x 軸, 直線 $x = 1$ で囲まれた図形の面積を T とすると

$$\begin{aligned} T &= \frac{1}{2} \left(1 - \frac{a}{2}\right) (2a - a^2) \\ &= \frac{a^3}{4} - a^2 + a \end{aligned}$$



よって $S(a) = \int_0^1 x^2 dx - T$

$$\begin{aligned} &= \left[\frac{x^3}{3} \right]_0^1 - \left(\frac{a^3}{4} - a^2 + a \right) \\ &= -\frac{1}{4}a^3 + a^2 - a + \frac{1}{3} \end{aligned}$$

- (3) (2) の結果から

$$S'(a) = -\frac{3}{4}a^2 + 2a - 1 = -\frac{1}{4}(3a - 2)(a - 2)$$

$S(a)$ の増減表は, 次のようになる.

a	(0)	...	$\frac{2}{3}$...	1
$S'(a)$		-	0	+	
$S(a)$		↘	$\frac{1}{27}$	↗	

よって $a = \frac{2}{3}$ のとき最小値 $\frac{1}{27}$

6 (1) \vec{b} に垂直なベクトルの 1 つを \vec{m} とすると

$$\vec{m} = |\vec{b}|^2 \vec{a} - (\vec{a} \cdot \vec{b}) \vec{b} = \vec{a} - t\vec{b} \quad \text{ゆえに} \quad \vec{a} = t\vec{b} + \vec{m}$$

$$\begin{aligned} \text{よって} \quad \overrightarrow{OC} &= t\vec{b} - \vec{m} \\ &= t\vec{b} - (\vec{a} - t\vec{b}) = -\vec{a} + 2t\vec{b} \end{aligned}$$

(2) \overrightarrow{OC} に垂直なベクトルの 1 つを \vec{n} とすると

$$\vec{n} = |\overrightarrow{OC}|^2 \overrightarrow{OA} - (\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OC}) \overrightarrow{OC} \quad \dots \textcircled{1}$$

$$\begin{aligned} \text{ここで} \quad |\overrightarrow{OC}|^2 &= |-\vec{a} + 2t\vec{b}|^2 = |\vec{a}|^2 - 4t\vec{a} \cdot \vec{b} + 4t^2 |\vec{b}|^2 \\ &= 1^2 - 4t \cdot t + 4t^2 \cdot 1^2 = 1 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OC} &= \vec{a} \cdot (-\vec{a} + 2t\vec{b}) \\ &= -|\vec{a}|^2 + 2t\vec{a} \cdot \vec{b} = 2t^2 - 1 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{ゆえに} \quad \vec{n} &= \vec{a} - (2t^2 - 1)(-\vec{a} + 2t\vec{b}) \\ &= 2t^2 \vec{a} - 2t(2t^2 - 1)\vec{b} \end{aligned}$$

① より, $\overrightarrow{OA} = (2t^2 - 1)\overrightarrow{OC} + \vec{n}$ であるから

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OD} &= (2t^2 - 1)\overrightarrow{OC} - \vec{n} \\ &= (2t^2 - 1)(-\vec{a} + 2t\vec{b}) - \{2t^2 \vec{a} - 2t(2t^2 - 1)\vec{b}\} \\ &= (1 - 4t^2)\vec{a} + 4t(2t^2 - 1)\vec{b} \end{aligned}$$

このとき, $\overrightarrow{OD} // \vec{b}$ であるから

$$1 - 4t^2 = 0 \quad \text{これを解いて} \quad t = \pm \frac{1}{2}$$

- 7 (1) $F(x) = x^3 - x^2 + (k^2 - 1)x + k^2 + 1$ について, $F(-1) = 0$ であるから, $F(x)$ は $x + 1$ で割り切れる. したがって

$$F(x) = (x + 1)(x^2 - 2x + k^2 + 1)$$

$F(x) = 0$ の 2 つの虚数解は, $x + 1 \neq 0$ であるから

$$x^2 - 2x + k^2 + 1 = 0 \quad \text{ゆえに} \quad (x - 1)^2 + k^2 = 0$$

これを解いて $x = 1 \pm ki$

- (2) (A) R は $F(x) = 0$ の実数解を表す点であるから R(-1)

P, Q は $F(x) = 0$ の虚数解を表す点であるから, $\alpha = 1 + ki$, $\beta = 1 - ki$ とおき, P(α), Q(β) とする. 求める円の中心を C(γ) とすると, C は PQ の垂直二等分線上にあるから, γ は実数である. $RC = PC$ より

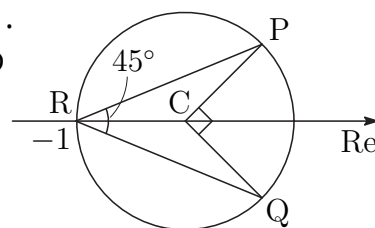
$$|\gamma - (-1)|^2 = |\gamma - \alpha|^2 \quad \text{ゆえに} \quad |\gamma + 1|^2 = |(\gamma - 1) - ki|^2$$

したがって $(\gamma + 1)^2 = (\gamma - 1)^2 + k^2$ これを解いて $\gamma = \frac{k^2}{4}$

半径は $RC = |\gamma - (-1)| = \frac{k^2}{4} + 1$

よって, 求める円の方程式は $\left| z - \frac{k^2}{4} \right| = \frac{k^2}{4} + 1$

- (B) $\angle PRQ = 45^\circ$ のとき, $\angle PCQ = 90^\circ$ である. CP は C を中心に CQ を 90° 回転させたものであるから



$$\alpha - \gamma = i(\beta - \gamma)$$

$$(1 + ki) - \frac{k^2}{4} = i \left\{ (1 - ki) - \frac{k^2}{4} \right\}$$

$$1 - \frac{k^2}{4} + ki = k + \left(1 - \frac{k^2}{4}\right) i$$

したがって $1 - \frac{k^2}{4} = k$ すなわち $k^2 + 4k - 4 = 0$

$k > 0$ に注意してこれを解くと $k = 2\sqrt{2} - 2$

- 8 (1) A 君が勝つ場合の組合せは、次の場合である。

$$(A, B) = (\text{石}, \text{さはみ}), (\text{はさみ}, \text{紙}), (\text{紙}, \text{石})$$

このとき、それぞれの場合の確率から、求める確率を p とすると

$$p = \frac{1}{6} \times \frac{1}{5} + \frac{2}{6} \times \frac{2}{5} + \frac{3}{6} \times \frac{2}{5} = \frac{11}{30}$$

- (2) (1) と同様に、B 君が勝つ場合の組合せ

$$(A, B) = (\text{はさみ}, \text{石}), (\text{紙}, \text{はさみ}), (\text{石}, \text{紙})$$

について、それぞれの場合の確率から、求める確率を q とすると

$$q = \frac{2}{6} \times \frac{2}{5} + \frac{3}{6} \times \frac{1}{5} + \frac{1}{6} \times \frac{2}{5} = \frac{9}{30}$$

引き分けになる確率を r とすると

$$r = 1 - (p + q) = 1 - \left(\frac{11}{30} + \frac{9}{30} \right) = \frac{1}{3}$$

よって、求める確率は

$$\frac{6!}{2!2!2!} p^2 q^2 r^2 = 90(pqr)^2 = 90 \left(\frac{11}{300} \right)^2 = \frac{121}{1000}$$

- (3) (1) の結果から、求める期待値は

$$900p = 900 \times \frac{11}{30} = 330 \text{ (回)}$$

$$\boxed{9} \quad (1) \quad a = \frac{1 + \sqrt{5}}{2}, b = \frac{1 - \sqrt{5}}{2} \text{ より} \quad a + b = 1, ab = -1$$

$$\text{よって} \quad a^3 + b^3 = (a + b)^3 - 3ab(a + b) = 1^3 - 3 \cdot (-1) \cdot 1 = 4$$

$$a^6 + b^6 = (a^3 + b^3)^2 - 2(ab)^3 = 4^2 - 2(-1)^3 = 18$$

(2) $x + y = 1$ に注意して

$$\begin{aligned} \left(1 + \frac{1}{x}\right)\left(1 + \frac{1}{y}\right) &= 1 + \left(\frac{1}{x} + \frac{1}{y}\right) + \frac{1}{xy} \\ &= 1 + \frac{x+y}{xy} + \frac{1}{xy} = 1 + \frac{2}{xy} \quad \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

$x > 0, y > 0$ であるから, 相加平均・相乗平均の関係により

$$1 = x + y \geq 2\sqrt{xy} \quad \text{ゆえに} \quad \frac{2}{xy} \geq 8 \quad \dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ より} \quad \left(1 + \frac{1}{x}\right)\left(1 + \frac{1}{y}\right) \geq 9$$

また, 等号が成立するのは, $\textcircled{2}$ より, 次のときである.

$$x = y \quad \text{すなわち} \quad x = y = \frac{1}{2}$$

$$\boxed{10} \quad (1) \quad \textcircled{4} \text{ は} \quad 16 + 17 + 18 + 19 + 20 = 21 + 22 + 23 + 24$$

$$\text{よって} \quad S(4) = 90$$

(2) \textcircled{n} は

$$n^2 + (n^2 + 1) + \dots + (n^2 + n) = (n^2 + n + 1) + \dots + (n^2 + 2n)$$

$$\begin{aligned} \text{(左辺)} &= \sum_{k=1}^{n+1} (n^2 - 1 + k) \\ &= (n^2 - 1)(n + 1) + \frac{1}{2}(n + 1)(n + 2) \\ &= \frac{1}{2}(n + 1)\{2(n^2 - 1) + (n + 2)\} = \frac{1}{2}n(n + 1)(2n + 1) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{(右辺)} &= \sum_{k=1}^n (n^2 + n + k) \\ &= n^2(n + 1) + \frac{1}{2}n(n + 1) = \frac{1}{2}n(n + 1)(2n + 1) \end{aligned}$$

よって, \textcircled{n} は成り立つ.

11 (1) $\triangle ABD$ および直線 EP について, メネラウスの定理を適用すると

$$\frac{AP}{PD} \cdot \frac{DC}{CB} \cdot \frac{BE}{EA} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{AP}{PD} \cdot \frac{b}{b+1} \cdot \frac{a}{1} = 1$$

よって $AP : PD = (b + 1) : ab$

$$(2) \quad \frac{\triangle ABD}{\triangle ABC} = \frac{1}{b+1}, \quad \frac{\triangle APE}{\triangle ABD} = \frac{AE}{AB} \cdot \frac{AP}{AD} = \frac{1}{a+1} \cdot \frac{b+1}{(b+1)+ab}$$

上の2式の辺々を掛けると $\frac{\triangle APE}{\triangle ABC} = \frac{1}{(a+1)(ab+b+1)}$

よって $\triangle APE : \triangle ABC = 1 : (a+1)(ab+b+1)$